

がつ にち ようび ()

手近な国語辞典で、因縁を引いてみると、『①因と縁。仏教で物事がすべてそれによって生滅する因と縁、②運命③由来。来歴。』とあります。9月も残す所、数日になっても、現世でまだ、まだ元気に頑張れそうなので、午前中だけ、作業をして、午後から、雑用を片付けたり、休養したり、レポートをまとめたりしている。人生の秋(晩冬)になって、残りの時間の切迫していることを、日々感じている。15万円払って、英国のJ.ウオーラム設計のTKI-30の図面を購入した。ビルディング・プランの巻末にTKI-



21のBox TRAILERのカラー写真が...付いているので、コピーして左に主なものをのり付けします。乗用車でTKI-21を引っぱって楽しもうというノウハウを教えてください。サービスです。楽しくてワクワクするか指をくわえて見ているだけが本人次第です。

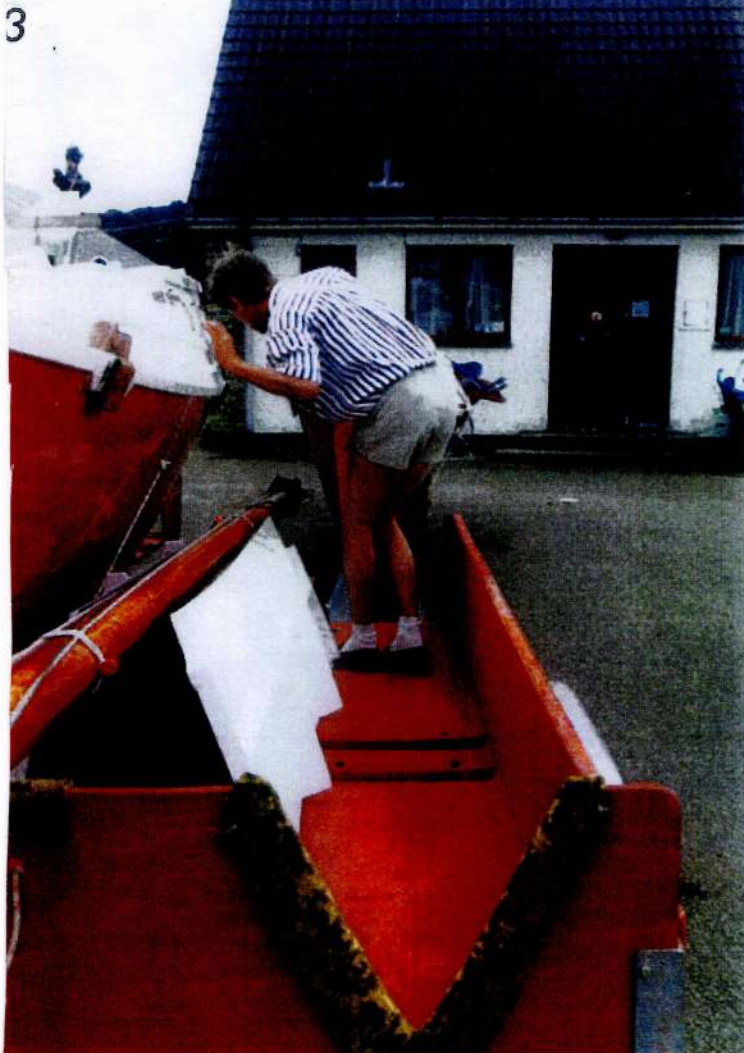
茨城の霞ヶ浦は、海軍の航空隊があったので、戦後ヨットの帆影が見られ、オリンピックの選手を多く輩出している。カタマランのH-14やH-16を楽しむ姿を見られ、F-27のトライマランも搬入した人がいて、見る事が出来た。我々の世代は、ハンガリーな世代ですので、他人のセイリングを楽しむ姿を見て、何時か乗ってみたいと思うだけでした。

船社から出された、クルージング・ワールド誌(1992年9月

TIKI 21

BOX TRAILER

DESIGN ALSO SUITABLE FOR TIKI 26, TIKI 30



号、1992年10月号、1995年3月号)で、J.ウオラムの特集記事が組まれて、詳読させてもらった。

『中でも82年にデザインした<TIKI-21>は、大成功を収め、アメリカの「クルージング・ワールド」誌の「デザイン・コンペティション」で優勝しました。』(92年CW誌9月号より)

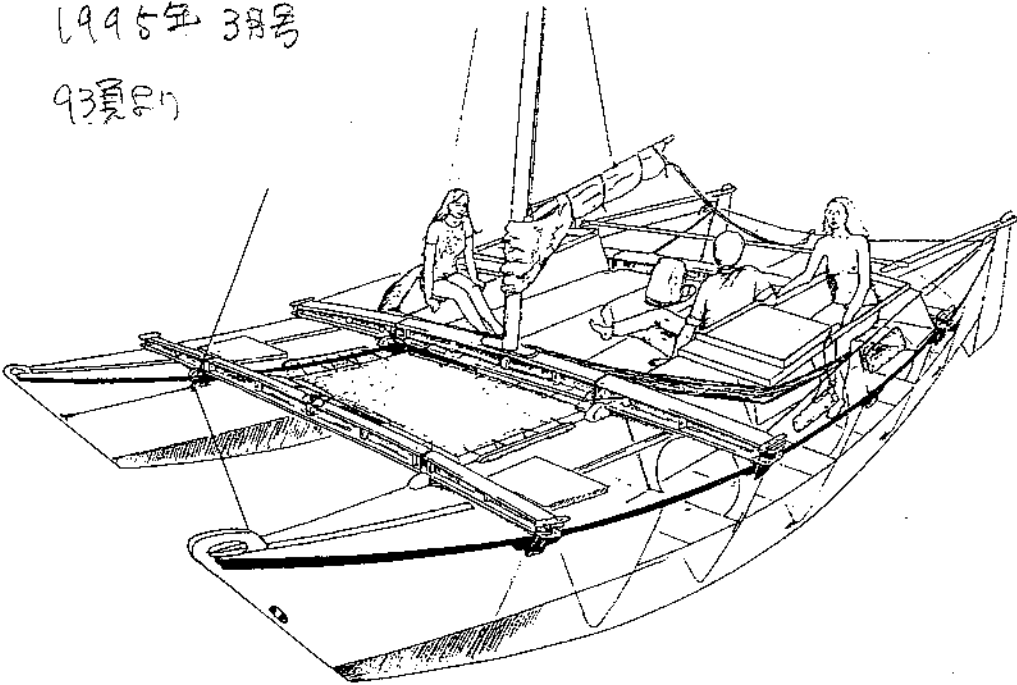
TIKI-21のわかりやすいイラストが、1995年3月号の93頁にあるので、コピーしてNo3の頁の左下にクリイタしておきます。セイリングが好きで、A級ディズギンもクリンカー張りの外板から、セウヤ・セウヤ、可愛い音を出して、セイリングしているのを

見たら、何時か、はつらうと同じで、何時か、^かFRP製のA級を作ると決心した。2002年の西の宮の全日本に国産のFRPディンギーを完成後搬入して、レースを楽しめた。昨年、TIKI-30製作で購入した、カーボン繊維を使用して、A級ディンギーを自作した。多分国産初(?)ではないかと思える(?)。あの世が近くなると、やりたい事が決ってくるので、残りの時間を有効に使いたい。TIKI-21をトレラーで引っ張って、己の好きなセリングを楽しむのもOKですし、やりたい事をやりたい時にやらないと、残りの時間が無くなって来ている。9/29(金)は、Yと2人で、大洗のO小学校の造船所(昇降口)に出向いて、前日に榎木と鉛のインゴットで、A級のデッキと船底との接合部を接着したが、ばみ出たシリコーンをノミで取り

除き、清掃、サウナー掛けをする。2011年の震災で、リーナの電源が使えなくなったので、ボウの発電機を買って、401の(3000W)の修理を行った。

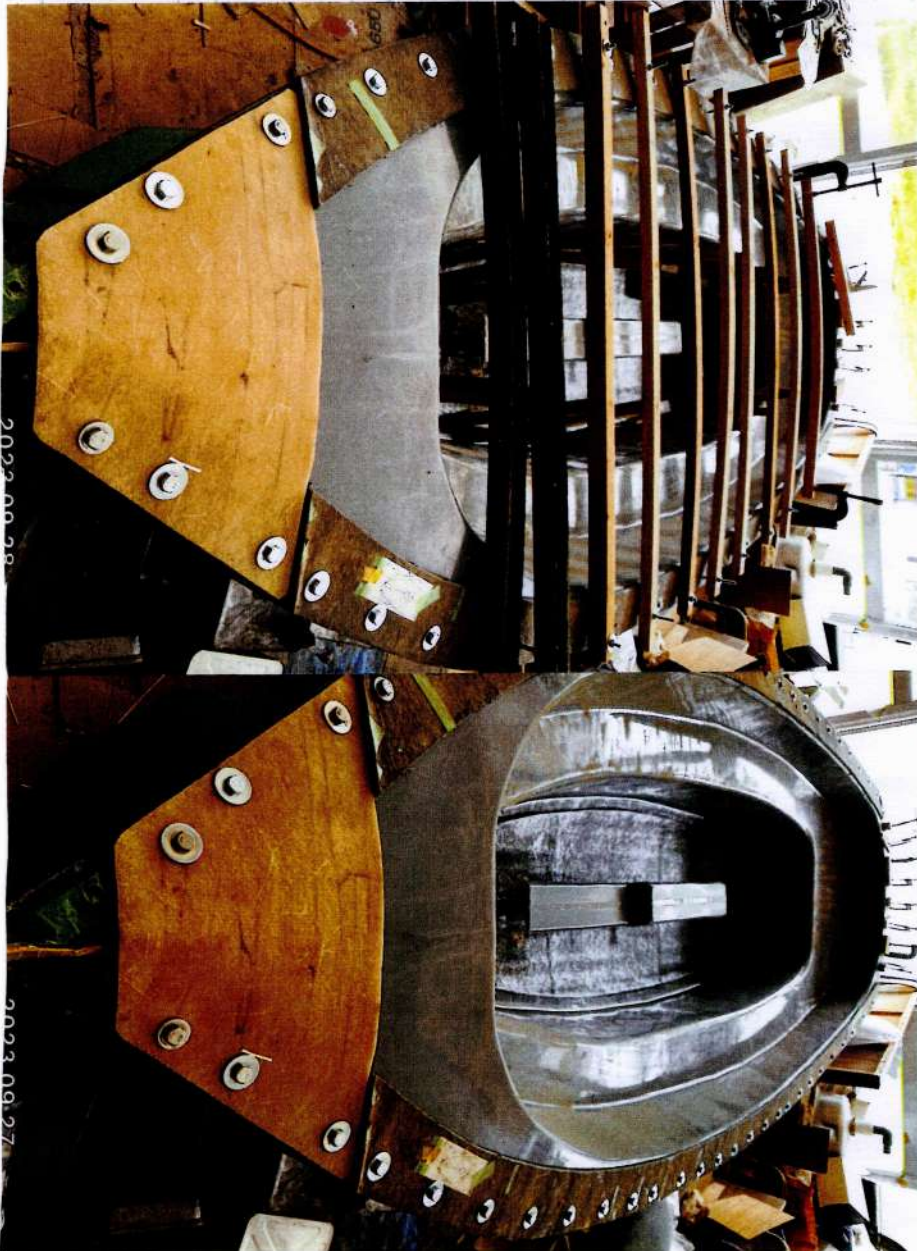
クルージングワールド
1995年 38号
93頁より

沿岸クルージング用にラインナップされた「コースタル・トレック」シリーズの「ティキ21」



小学校は廃校になって、電源を使用しないで下さいとの事ですので、発電機で、工具、掃除機等の電源にしている。9/27(水)に千葉にTの新車を引き取りに行った大洗町のO氏は、28日にハンドルロックを掛けたが、古いもので鍵を破損したそうです。ディスクサンダーで切断する話をもられたが、花火の様子は火の子が飛ぶので、金鋸で切断する事をすすめた。

Tを買わないで、30



欲しかったが、こればかりはどうにもならない。仲間内で、唯一海外で、H-16の小快走を楽しんで来た人で、A級も湘南で乗った事があるとの事であが...。垂木と鉛のインゴットで固着したA級ディンキーのゴックピットに入ると、ゴックピットの固さがはんばい事か、手を伝わってわかる。どうやら、とんでも無い性能の船になった。

2002年にFRPのA級を2隻作った。一隻は霞ヶ浦のA.Y.C.に寄贈した。金沢大に一隻残っていた木造のA級ディンギーを御借りして、FRPの船体のXス型を作らせてもらった。御礼に金沢大に一隻寄贈した。2009年に、運子のS先生の船のFRP船体のみと、己のV-Sの義のハル・ディンギーFRPのものも2隻作った。その後、横須賀のDセルのHセルXス型を借りに来て、何隻か作らせた様です。

Yと2人で、固着用の鉛を軽バンに積み込んだ。水戸の21坪のミニ造船所に降して、作業はやめにす。2023年度の12月一杯で、昇降口造船所を返却しなければならぬので、その準備で、A級を仕上げたいからです。せがきくくった、やっど作った(?)TIKI-30のFRPの型は、己の資産なので活用したい。最初に21坪のヨット専用工場を作ったが、中古の30坪でも、好きな新車も買える投資でした。それからずっと建屋や船に投資して、好きな車は乗れずじまいた。

TIKI-30のFRP Xス型だけでもあれば、若かったら、ボートショーに出してプロデュースする。A級ディンギーのFRP Xス型があるので、カーボン製の合体前のハル・ディンギーをボート・ショーに持ち込んで、プロデュースしたいものだが、何とか、商売が順調になったら、TIKI-21も作ってみたい。もちろんTIKI-36や38もプロデュースしたい。木造のA級ディンギーも合板のディンギーも、合板のキングフィッシャーも、皆姿を消して知っている人が少なくなった。

父親が脱カウで木工所を始め、2代目の小笠が廃業して跡地で、アポート経営を始めた。2004年一杯工事がかかり、来年になると、20年前の話になる。家賃の固定収入があるが、税金と銀行返済で大部分無くなり、手元には少ししか残らない。少しでも固定収入があれば、好きな事に熱中出来る。2014年に、太平洋往復の航海で、3ヶ月と2週間、家を空けたのが最大です。2005年の小笠原レース参加後、2017年、2019年、2023年と連続4回参加して、今年最高齢とかで、特別賞をもらった。太平洋横断、沖縄の回航、仲間とのクルージングで、小笠原はまた7回しか行っていない。沖縄は、2006年の石垣へ台湾の回航で、初訪し、2010年、2012年と3回しか行っていない。関西のセイラーなら、沖縄クルージングは一人

R 前のセイラーに認められる登竜門と思える。

5 A級ティンギーの全日本に出て、有名大学OBの所有する高級な木造ティンギーに驚いた。ケースを起して、トラ

9/ ブルをさけたいので、スターボートでもよける様にした。

29 TIKI-30のマストを立てて、船検を取って、進出させ、約30坪のO小学校の造船所の後片付けをする作

伊 業を終えれば、今年の12月迄の予定は終了です。

12/29(金)の午後、Yと2人で、2坪のミニ造船所に鉛のインゴットを降して、1フロア4室の3階建てのアポートの北側とフェンスの間隔をコンバックスで測った。1.8mのスペースがあり、長さば、12mですので、TIKI-30の艇体と甲板のFRP×ス型がキャスターを取り付けた型を移動して、楽に保管出来そうです。